



栢田小だより

八王子市立栢田小学校長 平田 英一郎
(ホームページ) <https://hachioji-school.ed.jp/kngde/>

「たった一つの命だから」～『命の大切さを学ぶ日』の校長講話から～

校長 平田 英一郎

八王子市では、「一人ひとりの児童のかけがえのない命を必ず守る。」という思いから、「八王子市いのちの大切さを共に考える日」を設定しています。その一つとして6月22日(月)に体育館で行った校長講話の内容をお知らせします。(同日の本校HPでもご報告いたしました。)以下、その内容です。

もうすぐ7月です。

5年生と6年生は、学校を離れ、おうちの人と離れて、移動教室に行ってきました。

1泊2日、あるいは2泊3日の経験で、さらにかっこよく大きく成長して帰ってきました。5・6年生ががんばりましたね。

北区の火事の件も知っている人が多いと思います。

普段の避難訓練が大いに役立ったそうです。「じぶんの命は自分で守る」ことを栢田小では毎回お話ししています。そのために「おかしもち」の合言葉を守り、姿勢を低くしてハンカチ等で口を覆って避難することを、もう一度確認しましょう。

暑い日、蒸し暑くジメジメした天気などが多いですね。

疲れが出てくる人も多くなります、食中毒などにも気を付けたいですね。

みなさん、早寝早起き、朝ご飯、適度な運動、睡眠をしっかりとって、心も体も健康な生活を過ごすようにしましょう。

さて、今日は「命の大切さを学ぶ日」ということで、「大切な命」について二つお話しします。

◇ 一つ目は「たった一つの命だから」です。

この言葉は、西尾 誉佳(にしお えいか)さんという人が書いた字、言葉です。

誉佳さんは14歳(中学校2年生)の時、骨のガンと言われる骨肉種という怖い病気にかかってしまい、このまま死んでしまうか、右腕を切るか、と言われ、生きるために右手を切ることを選んだそうです。



テニスの選手を目指して部活に励んでいた誉佳さん。どれだけ決心するのに悩んだことでしょう。手術の前日、お母さんと一緒にテニスをしたのが右手を使った最後になったそうです。

その年の年賀状に「腕がなくても、頑張って生きるよ。たった一つの命だから」と、左手で書いたそうです。右利きだったんだけど練習して、左手でこの力強い文字を書きました。

「たった一つの命だから たとえ腕がなくても その命を大切に欲しい」と誉佳さんはメッセージを残してくれました。

大切な 大切な 命。

誉佳さんは16歳で短い生涯を閉じました。

自分も、友だちも、たった一つしかない命です。大切に、簡単に捨てることなく、誉佳さんの分も元気に幸せに生きて欲しいと思います。

◇ ニつ目のお話は「出来る出来ないを決めるのは自分だ」というお話です。

水泳の日本代表選手である池江 璃花子(いけえ りかこ)選手は18歳の時に白血病という恐ろしい病気にかかってしまいました。池江選手は日本記録を出したり、日本代表選手に選ばれたりして、将来をとっても期待されていました。そんな絶好調なときに突然、白血病になってしまいました。病気との戦いのようす・復活の喜びをビデオで見てみましょう。



<ビデオ視聴>

病気が分かったとき「なんで自分だけ」と思わず、「きっと自分ならまた頑張れる」とあきらめず頑張ったからこの日の活躍につながったのだと思います。

梶田小の皆さんも大変なことはこれからいくらかもあると思います。でも、どんなに困難な時にもあきらめず頑張ってくださいと思います。「出来る出来ないを決めるのは自分」です。

命を大切に決してあきらめないで欲しいのです。

そして、梶田小の皆さんには支えてくれる仲間がいます、先生方がいます、おうちの方や地域の方もいます。今年の合言葉は「チーム梶田 ～梶田小のために私はなにができるのか?～」です。困っている友だちがいたら、悩んでいる仲間がいたら、皆さんなら何ができますか?「大丈夫?」と優しく声をかけてあげることができると思います。「どうしたの?」と悩みを聞いてあげることができると思います。自分だけでは何もできないと思ったら、信頼できる大人の人に相談することもいいと思います。

これからも「チーム梶田」の一員として、みんなで支え合い励ましあって、懸命に生きていきましょう。

小中一貫教育の取組について

小中一貫教育担当 主幹教諭 野田 大地

八王子市の教育施策の中心的な柱として「小中一貫教育」があります。梶田小学校は梶田中学校、横山第一小学校、緑が丘小学校との連携を密にし、「地域の一員として確かな学力と正しい規範意識をもち、心身ともに健康で、自ら課題に取り組み学ぶ意欲をもった人間の育成をめざす」という目標を掲げ指導の円滑な接続を図っています。

今年度は小中一貫教育に関連した以下の取組を実施・または予定しています。

①梶田中学校の2年生数名による職場体験

キャリア教育の一環として、梶田中学校2年生が様々な職場で体験学習を行っています。その職場の一つとして梶田小学校で、教員、用務員、事務職員、給食管理員、スクールカウンセラー、スクールサポートスタッフなどの仕事を体験したり、仕事のお話を聞いたりする予定です。

②梶田中学校授業見学

中学生の生活や、中学校はどのようなところかを知るために、梶田中学校に各校（梶田小学校・横山第一小学校・緑が丘小学校）の6年生が集まり、授業の見学をしました。

③四校家庭学習重点週間

梶田中学校の中間テストの時期に合わせて、小学校でも「落ち着いてじっくりと家庭学習に臨む」ことを共通目的として、四校家庭学習重点週間を設定しています。家庭学習は学力向上のためには欠かすことができません。家庭学習について、ご家庭でもこの期間は特に意識して取り組むようお願いします。

④梶田地区ふれあい活動

地域の協力を得ながら、同時期に四校全てで同内容の挨拶運動を展開します。

その他、小中合同質問教室、梶田地区地域清掃、教員同士による授業参観などを予定しています。

特別支援教室くぬぎ

くぬぎ教室 主任教諭 齋藤 友美

特別支援教室（くぬぎ教室）には6名の教員と1名の専門員が所属しており、教員は曜日ごとに横山第一小・散田小・梶田小・緑が丘小を巡回して指導しています。6月現在、4校合わせて72名の児童が在籍しています。

個別指導は、児童の実態に応じた教材を用いて、本人の悩みや課題に対する解決方法を一緒に考えたり、見付けたりしながら学んでいます。具体的には友だちとの距離感や社会のルールやマナー、感情のコントロールなどについて絵カードやワークシートなどを用いて指導しています。小集団指導では、1グループ4～7名の児童を2～3名の教員で指導しています。ロールプレイや集団活動をとおして、場に応じた行動の仕方、友だちとの適切な関わり方などの社会性につながる学習を学んでいます。

指導する上で私たちは、①気持ちが落ち着く「雰囲気づくり」②相談しやすい「関係づくり」③集中できる「環境づくり」④できたことをたくさん褒め、児童が自信をもてる「授業づくり」を大切にしています。くぬぎ教室で学んだことが学級や普段の生活でも活かせるように支援しています。

